

氏名 すみの 隅野 みさき 美砂輝 講師



主な研究テーマ

□スポーツマネジメント、スポーツマーケティング

平成27年度の研究内容とその成果

私の研究分野はスポーツマーケティング、スポーツマネジメントです。平成27年度に行った研究のうち、ここではスポーツ観戦者に関する研究をご紹介します。

JリーグではJ1・J2のリーグ戦に会場した観戦者の動向を把握するために、スタジアム観戦者調査を2001年から毎年実施しています。この調査は全国のスポーツマネジメント分野の研究者の協力のもと、J1・J2全クラブのホームゲームで行われています。Jリーグのようなプロスポーツでは、いかに多くのお客さんにスタジアムへ足を運んでもらえるかが大きな課題となっています。そのためのプロモーションやチケット戦略などの戦略を考える上で、お客さんである観戦者のデータをリーグ全体で継続的に収集・分析することが必要不可欠となっているのです。私が担当しているのはJ2に所属しているロアッソ熊本。2008（平成20）年にJ2へ昇格してから継続して関わらせていただいています。平成27年度は7月12日に熊本県民総合運動公園陸上競技場で開催されたホームゲーム

で調査を実施しました。主な調査項目には、年齢や性別などの「観戦者のプロフィール」、「観戦行動の特徴」、「Jリーグとコミュニティ」、「スタジアム観戦の動機」が設定され、アンケートによりデータを収集しました。調査対象となった試合には3,978人のファンが来場し、来場者全体を反映するように配慮しながら390人分のデータを得ることができました。アンケートの配布・



写真1 熊本県民総合運動公園陸上競技場



写真2 スタジアム調査の様子

回収は、本学の学生・大学院生が担当しました（写真2）。

ここでは、ロアッソ熊本の調査結果をいくつかご紹介したいと思います。まず「観戦者のプロフィール」についてですが、男女の割合は男性がおよそ61.1%、女性が38.9%、平均年齢は43.7歳となりました。観戦者の居住地については、ホームクラブ応援者の98.1%がホームタウンの熊本県内という結果で、これはリーグ全体でも40クラブ中で2番目に高い値となりました（リーグ平均は86.8%）。次に「観戦行動の特徴」の項目のうち、同伴者についての結果では、ひとりで観戦する割合が26.0%と昨年の17.0%に比べて多くなった一方、家族と一緒に観戦する割合が昨年の58.5%から51.8%と減少しました。「Jリーグとコミュニティ」の項目では、「Jクラブはホームタウンで大きな貢献をしている」ことに対し肯定的な回答をした観戦者の割合は80.0%と、ロアッソ熊本が地元でしっかりと受け入れられていることが窺えました。また「スタジアム観戦の動機」の項目でも、「地元のクラブだから」と回答された値（53.0%）がリーグ中で3番目に高いという結果が得られており、「ロアッソ熊本が地元のクラブである」という意識がスタジアム観戦という行動の重要な要因となっている可能性が示されました。

### これからの研究の展望

毎年のように話題となるJリーグの観客数ですが、2015シーズンのJ2に関しては、

1試合平均で前年より256人増の6,845人となりました。一方、熊本においては前年より35人プラスの7,037人で、わずかではありましたが、結果的には3年連続の増となっています。クラブの観客動員数を増加させた要因が何であるかについては、より詳細な分析が必要となりますが、クラブが行ってきたチケットやプロモーション、スタジアム内でのサービスなどの様々な取り組みが、着実に確実に少しずつファン層を広げ、スタジアムに足を運ぶことを習慣化してもらうことにつながってきたものと考えられます。今後は、こういった取り組みと観客動員数の増減との関係を詳細に分析するような調査研究の開発が求められているように思います。

最後にご紹介ですが、全クラブのデータをまとめた「Jリーグスタジアム観戦者調査2015サマリーレポート」（写真3）がJリーグ公式ウェブサイト（[www.j-league.or.jp](http://www.j-league.or.jp)）に公開されています。興味のある方は是非ご覧いただければと思います。

※写真1、写真2とも過年度のもの。



写真3 Jリーグスタジアム観戦者調査2015サマリーレポート